

令和元年度

甲斐市立竜王中学校

信玄堤

学校だより No. 18

令和2年3月26日

発行者 校長 今村弘樹

令和元年度の締めくくりは異例なものになりましたが 1年間みんなで共に成長し

よりよい竜王中学校をめざし 確かな足跡を残してきた1年でした

学校が1ヶ月近くも休校になり、人が集まるような場所に出かけていくこともできず、家で多くの時間を過ごさなきゃならないのは大変だったのだらうと思います。だらだらと過ごしてしまったり、イライラもたまったりしたかもしれません。でも、ゆったりと過ごせて、今までの振り返りができたり、普段できないことにチャレンジしたり、大切な時間にもできたことと思います。



学校でも先生たちは生徒の声の響かない学校に寂しさを感じ、とまどいながらも今できることをやってきました。卒業式の準備も職員全員で行い、毎朝全員で校内の清掃をしています。生徒の存在の大きさを感じながら、竜王中のために働く先生たちの姿も美しいです。



卒業式も在校生が参加できず、全員がマスク着用のまま発表も行いました。十分な練習もできない中で、卒業生が思いを込めて、竜王中学校での生活を振り返り、多くの感謝を伝え、未来への希望を語ってくれました。マスクが不足する中でつけてこられない方のために市から貴重なマスクが配付されていましたが、すべての保護者の方がマスクをつけてきてくれました。直前に近隣で発症者の報道が出て、保護者不参加になった地域もあります。そんな心配な状況の中、みなさんがこの日に向けて準備してくれてきたという思いが伝わってきて、共に卒業を祝えてよかったと心から思いました。できるだけ縮小を図りながら、卒業生の発表は合唱を含めて大切にしたいと式を行いました。在校生からの言葉もないということから、3年生の先生たちを中心に歌と言葉で思いを伝えました。



卒業式で「二度とない人生だから」という校長室にある詩の一節について話をしました。3月11日だったこともあり、卒業という大きな節目に、たった一度の自分だけの人生と向き合ってもらいたいという思いでした。みなさんなら「二度とない人生だから ○○○…」にどんなことを入れますか。



最後は異例な終わりでしたが、1年間それぞれが努力し、成長を続けてきた令和元年度でした。

「学校がある」という当たり前のありがたさを心に留めて、毎日の当たり前の生活を大事に、卒業生が残してくれた竜王中への思いをさらに発展させていきましょう。



別れの言葉

三年間、共に歩んできた百三十三人の仲間と学び舎に、いよいよ別れを告げる時となりました。

この竜王中学校で私たちは多くのことを経験し、学び、成長することができました。時には挫折し、悩み、逃げたくなることもありました。そんな時、支えてくれたのはここにいる皆さんです。この竜王中学校での三年間で、この仲間と共に成長し、周りの人に支えられ、感謝する心を学ぶことができました。その心の成長こそが、私たちの成長なのです。

在校生の皆さんも、この竜王中学校で成長してください。「今」を大切に、この最高のステージで思い切り成長してください。



目の前で伝えられなかった卒業生の



在校生への思いを込めた言葉を



心に強く留めて いつまでも大好きだと



言える竜中に 今度はみんなの手で

この伝統ある竜王中学校の生徒であることをプライドに持ち、私たちがこれからも誇れる竜王中学校へとさらに発展させてください。皆さんならできるはずですよ。

一年生の皆さん、もうすぐ後輩が出来ます。皆さんが後輩の手本になってください。時には厳しく、時には優しく、たくさんのことを教えてあげてください。そして二年生を助け、多くのことに挑戦していつてく

ださい。

二年生の皆さん、四月からは学校の顔として活動することになります。これまでとは違う特別な一年となります。大きなプレッシャーになるかもしれません。しかし、皆さんには仲間がいます。仲間を信じ、時には我慢し、挑戦し続けていつてく

ださい。

在校生の皆さん、頼りない私たちに最後までついてきてくれて本当にありがとうございました。

今、三年間を振り返ると、「仲間ついでいものだ」と心から思えます。「竜王中ついでいものだ」と心から思えます。これから先どんなことがあっても、ここで過ごした三年間が、何よりも強い心の支えになることでしょう。竜王中学校が私たちの大好きな竜王中学校のままであることを願っています。これまで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

令和二年三月十一日

卒業生一同